



特集

卒業

そして、
それぞれの未来へ。

みち



荒砥高等学校卒業式

白鷹町唯一の高等学校である「山形県立荒砥高等学校」。

3月3日、在校生や先生方に笑顔で見送られ、卒業生61人が3年間過ごした学び舎から巣立ちました。

サクラ咲く

今年度の卒業生は、就職内定率が4年連続となる100%を達成。また、進学合格率についても、目標の100%を達成しました。荒砥高校で学び、それぞれがつかんだ未来に向かい、この春から全員が、町内または町外の企業へ就職、あるいは大学や専門学校等へ進学します。

入口から出口まで

人口減少が進む白鷹町。特に若者の地元離れが目立つ中で、荒砥高校の今年度の卒業生のう

ち、約半数が長井・西置賜地域の企業へ就職します。

今、町では、この荒砥高校生の入口(入学)と出口(就職)を確保するため、荒砥高校へ入学された方々へ入学をお祝いする「新人生応援事業」や資格取得により就職に大変有利な「介護職員初任者研修」の資格取得支援事業などを行っています。今年度、荒砥高校から介護職員初任者研修を受講したのは4人(表紙、3頁に関連)。学業・部活動と両立させながら研修を受講し、全員合格。町内をはじめとする福祉施設に就職します。

荒砥高校と町の連携により、若者が地元に残り、力を発揮できるような出口までの道筋が形になりました。白鷹町にはなくてはならない、荒砥高校生というかけがえない財産を守るために、町はこれからも荒砥高校をサポートしていきます。